

# 七尾市農業委員会だより

2022  
新年

令和4年1月1日発行／発行 七尾市農業委員会／編集 農業委員会だより編集委員会  
TEL 0767 (53) 8440／FAX 0767 (52) 7765／E-mail:nougyouinkai@city.nanao.lg.jp

No.64



中島干拓地から七尾湾を望む 写真：中野久明

## 明けましておめでとうございます

### 本年もよろしく願い申し上げます

令和四年元旦 七尾市農業委員会

会長職務代理者  
委員 長

事村中道出村細中桜石福長出山西岩岩伊前長中竹白  
務 局 瀨山海島田谷畠井坂田田村田野見木豆吉川川山山  
職 員 峰 隆祐正明宗政竜純善光清 信 良俊 茂久  
一 同行博雄治明郎満慶太也郎男隆猛秀総一明勝春雄博

農地利用最適化推進委員

寺坂川須橋北法酒加辻川花大長萩山木坂  
井本島崎本谷京井地 上園濱田原本下井  
英良五昭良俊廣 俊茂 陽 俊正豊助  
十 雄正二夫子一照総隆典伸一昭章彦秋秋光

農業委員

# 新年明けまして

## おめでとうございます



七尾市農業委員会

会長 坂井助光

皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、農業委員会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

一昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大で昨年も経済活動の縮小が続き、極めて厳しい年でありました。特に農家にとっては昨年に続き天候不順の影響を受け、野菜等の価格が安定しない年でもありました。またコロナ禍の影響で外食産業への米の供給減が、米価の大幅な下落となり、農業経営を直撃しました。この影響は当面続くと思われ、米生産農家の再生産意欲の確保が緊急課題となっております。

本年も農家・農業を巡る情勢は厳しいものとなることが見込まれるなかで、担い手をはじめとする後継者及び営農組織の育成等や耕作放棄地の解消、鳥獣被害対策など多くの課題が山積しております。

これらの諸問題、課題に農業委員、農地利用最適化推進委員一丸となって取り組んでまいりる所存であります。

特に昨年から新たに始めた非農地判断の取り組みを継続するなど、「守るべき農地」とそうでない農地を明確にし、農地利用の最適化にも引き続き取り組んでまいりたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

結びに皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

# 頑張ってます!

《part 41》

## メロン栽培で育苗ハウスを有効活用!

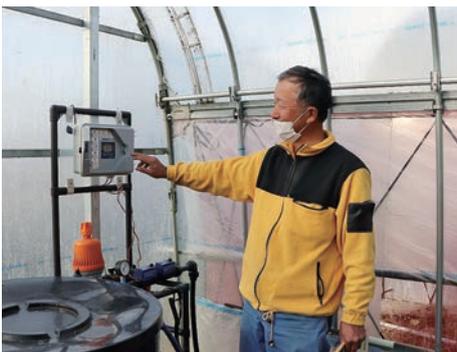


農事組合法人アグリ飯川  
(代表理事 澤多秀夫)

農事組合法人「アグリ飯川」でメロン栽培を担当する天池俊彦さんに話を聞きました。

同法人は平成27年2月に圃場整備をきっかけに営農組合から農事組合法人として新たにスタートし、水稲約26haを耕作しています。夏から冬に未使用となる育苗ハウスを有効活用したいと考え、JA指導の下、ハウス1棟を使用して昨年春からアールスメロンの栽培に取り組みました。JA全農が開発・販売した栽培管理システム「ういず One」を導入しての試みで、野菜栽培では県内16か所で導入済みですが、メロン栽培では県内初の取り組みです。このシステムは、根元部分の土にチューブ

を挿して作物の生育状況に合わせて必要な水や肥料を時間設定により自動で与えることができるため、肥培管理の失敗が少なくなるということです。メロンは夏と秋の二期作で夏メロンは5月に苗から植えて8月に出荷。秋メロンは7月中旬に種から植えて10月下旬から11月上旬に出荷。一期につき約400個程度出荷しました。重さは約1.2キロ、糖度は基準値の14度を満たしており、JAGリーンわかばの里、道の駅「織姫の里なかの」とに並び好評だったのでぜひ皆さんに食べてほしいと話していました。今後は米に加えてメロンで頑張り、通年の収益増を目指したいと抱負を語りました。



システムの操作をする天池俊彦さん

## 第59回 石川県農業委員会大会

11月19日、羽咋市のコスモアイル羽咋で県内市町から農業委員、農地利用最適化推進委員ほか関係者約400人が参集して石川県農業委員会大会が開催された。

大会に先立ち、魅力ある地域づくり研究所代表の可知祐一郎氏による「農地中間管理事業をフル活用！『地域まるっと中間管理方式』」と題して基調講演が行われた。講演では、農業経営と地域の農地の維持管理の

両方を担う一般社団法人（非営利型）の設立の仕方やメリットなどの説明があり、集落営農法人化の新たな選択肢が紹介された。

大会では、（一社）全国農業会議所による「農業委員会組織をめぐる情勢について」の報告。議案審議では、農業政策に関する提案決議、「地域の農地を活かし、担い手を応援する全国運動」により実質化された人・農地プランを



実行するための申し合わせ決議」及び全国農業新聞、全国農業図書の普及や農業者年金の加入推進など情報提供活動の取り組み強化に関する申し合わせ決議の3件を採択した。

また、永年勤続農業委員等表彰において農地利用最適化推進委員の村瀬峰行さんが石川県農業会議会長表彰（通算9年以上）を受賞した。



## 農業者年金加入推進特別研修会

### 橋本委員が七尾市の取組事例の報告

10月11日（月）、石川県地場産業振興センターにおいて、「令和3年度農業者年金加入推進特別研修会」が開催され、当委員会から、加入推進部長の橋本良子委員、同副部長の山本正秋委員、事務局1名が出席した。県内市町農業委員会の農業者年金加入推進関係者やJAの担当者が出席。研修会は、会場での対面形式とweb形式の選択制で開催された。



最初に独立行政法人農業者年金基金の久保田一郎氏（企画調整室長）が農業者年金制度の概要と加入推進取組みについて、リモートで説明を行った。

県内の加入推進取り組み事例として、当市の橋本加入推進部長が報告を行った。当市は平成28年度から令和2年度までの5年間で新規加入者数を8名としており、個別訪問や農業委員・推進委員による呼び掛けのほか、推進する側の知識を深めるため、勉強会を開催するなどして加入者を増やしていることや今後の目標などを発表した。

最後に、石川県農業会議とJA石川県中央会がそれぞれ今年度の加入推進取り組み事項等を報告して閉会した。

## 取り組み状況報告

### 非農地判断の取り組み強化

#### 一括して地目変更登記も

昨年までに実施した農地パトロールで再生困難とされた農地について、「農地・非農地判断対象地リスト」を作成し、これをもとに地区担当委員や生産組合等と協議し、現地調査を実施した。この結果、地域一帯が山林化するなど非農地判断が妥当とされる農地については所有者にその旨を事前通知。拒む場合は農地を適正に管理するよう指導していくこととした。現地調査の結果は、総会で審議・判断し、非農地通知を发出する。非農地通知を受けて、所有者などが同意書を提出した場合は、市長が一括して法務局に登記地目変更の申し出を行う。

現地調査は昨年8月から本格的にスタート。舟尾町の100筆余りを調査し、11月の総会で102筆、0.6畝を非農地判断した。10月には中島町瀬嵐、11月には能登島二穴町を現地調査済み。1回に100筆を目標に市内5区域で順次非農地判断のための現地調査を行っていく。



# 農業委員募集

農業委員の欠員のため、農業に関心のある人を募集します。

## ■応募資格

農業に関する識見があり、農業委員会が所管する事項の職務を適切に行うことができる人。

## ■業務

農地の権利移動の許認可や転用許可にかかる意見の決定。農業の担い手への農地集積・集約化や遊休農地の発生防止・解消。農業者からの相談、助言など。（業務内容については七尾市農業委員会事務局まで）

■募集人数 1人（男女問わず）

## ■任期

任命の日～令和5年7月31日

■報酬 市の条例等により支給

## ■申込方法

- ①個人からの推薦
- ②団体等からの推薦
- ③自らの応募

いずれの場合も、申し込み用紙を農林水産課に提出してください。

※申し込み用紙は農林水産課窓口に配置のほか、市ホームページからダウンロードできます。

## ■申込期限

令和4年1月28日（金）



お問い合わせ 農林水産課 ☎53-5010

# 令和4年から 農業者年金制度が改正されます

平成14年1月から始まった新制度のみが対象

① 35歳未満で認定農業者に該当しない等一定の要件を満たす方は、保険料の納付下限額が2万円から1万円に引き下げられます。

（令和4年1月1日から）

※保険料引き下げ（保険料1万円以上）の対象者

次の①～⑤のいずれにも該当しない方

- ① 認定農業者かつ青色申告者
- ② 認定就農者かつ青色申告者
- ③ ①又は②の者と家族経営協定を締結し経営に参画している配偶者又は直系卑属
- ④ 認定農業者又は青色申告者
- ⑤ ①又は②以外の農業を営む者の直系卑属で、その農業に常時従事する後継者

※その他の改正予定

② 受給開始時期の選択肢が広がります。

（65歳以上75歳未満の間で選択）

（令和4年4月1日から）

③ 加入可能年齢の引き上げ（国民年金の任意加入者）

（令和4年5月1日から）

# 全国農業 新聞



を購読  
しましょう！

経営と暮らしに役立つ情報がいっぱい

◆発行日 毎週金曜日

◆購読料 一カ月700円 年額8,400円

## 編集後記



明けましておめでとうございます。令和3年は一昨年から続くコロナで、農業分野においても多大な影響を受けましたが、国内においてはようやく落ち着きを取り戻しつつあるようです。

さて農業委員会だより新年号を発刊することができました。今後も地域へより良い農業政策情報を伝えるよう努力してまいりますのでご愛読をお願いします。

編集委員長 長田章・委員一同

松中 功裕農業委員が令和3年10月28日に逝去されました。

平成26年7月から農業委員として七尾市の農業振興に多大な貢献をされました。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

お問い合わせ、お申し込みは農業委員会へ  
☎ 53-8440 FAX 52-7765